

業務及び財産の状況に関する説明書

【2020年3月期】

岡三証券株式会社

業務及び財産の状況に関する説明書

【2020年3月期】

この説明書は、金融商品取引法第46条の4に定める金融商品取引業等に関する内閣府令第174条の2の規定に基づき、インターネットの利用その他の方法により投資者が常に容易に閲覧することができるよう公表するために作成したものです。

岡三証券株式会社

(注) 本説明書中の記載金額等は表示単位未満を切り捨てております。

目 次

I. 当社の概況及び組織に関する事項	3
1. 商号	3
2. 登録年月日	3
3. 沿革及び経営の組織	3
4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合	5
5. 役員の氏名又は名称	5
6. 政令で定める使用人の氏名	7
7. 業務の種類	7
8. 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地	8
9. 他に行っている事業の種類	9
10. 指定紛争解決機関及び加入する金融商品取引業協会等の名称	10
11. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号	10
12. 加入する投資者保護基金の名称	10
13. 金融商品取引業等に関する内閣府令第 7 条第 3 号イ及び第 3 号の 2 から第 9 号までに掲げる事項のうち当社が行う業務	10
14. 苦情処理及び紛争解決の体制	10
II. 業務の状況に関する事項	11
1. 当期の業務の概要	11
2. 業務の状況を示す指標	14
III. 財産の状況に関する事項	18
1. 経理の状況	18
2. 借入金の主要な借入先及び借入金額	30
3. 保有する有価証券の取得価額、時価及び評価損益	32
4. デリバティブ取引の契約価額、時価及び評価損益	33
5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無	33
IV. 管理の状況	34
1. 内部管理の状況の概要	34
2. 分別管理等の状況	35
V. 連結子会社等の状況に関する事項	37
1. 企業集団の構成	37
2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等	37

I. 当社の概況及び組織に関する事項

1. 商号

岡三証券株式会社

2. 登録年月日（登録番号）

2007年9月30日（関東財務局長（金商）第53号）

3. 沿革及び経営の組織

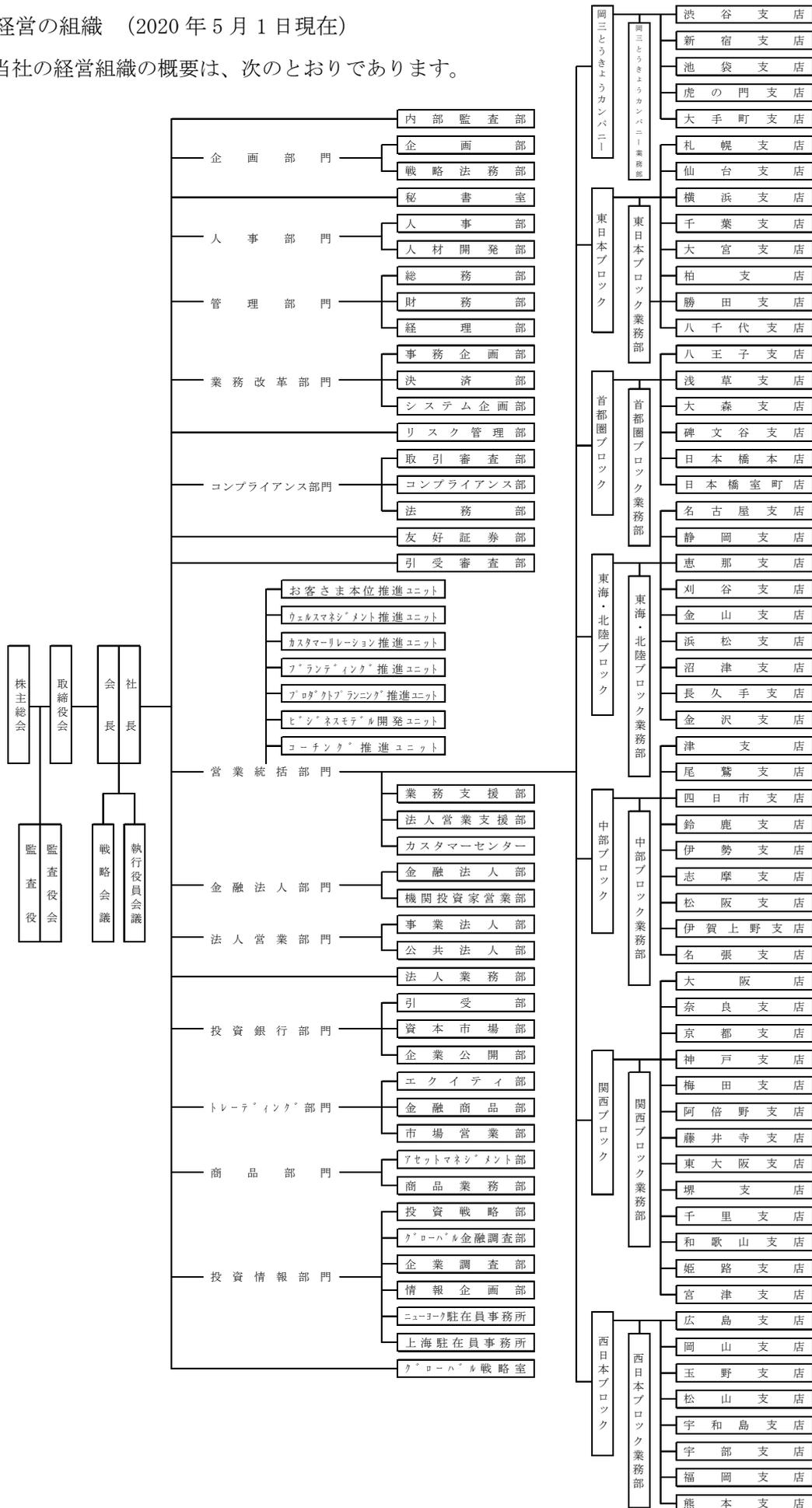
(1) 会社の沿革

当社は2003年4月10日、岡三証券株式会社（1944年8月設立、現・株式会社岡三証券グループ）の持株会社体制移行に際し、同社の完全子会社として設立され、今日に至っております。

年	月	沿 革
2003年	4月	岡三証券分割準備株式会社として資本金1億円にて設立。 本店 東京都中央区日本橋一丁目17番6号。
2003年	7月	有償株主割当増資により資本金5億円となる。 証券会社として登録。
2003年	10月	岡三証券株式会社（現社名 株式会社岡三証券グループ）より、 証券業その他の営業を承継するとともに、社名を岡三証券株式会社へ 変更し、営業を開始（資本金50億円）。 元引受業務の認可を受ける。
2004年	1月	有価証券店頭デリバティブ取引業務の認可を受ける。
2006年	12月	上海駐在員事務所を開設。
2007年	9月	金融商品取引法に基づく金融商品取引業者として登録。
2008年	4月	株式会社岡三経済研究所を吸収合併。
2008年	8月	投資情報部門を移転・集約して「岡三グローバルリサーチセンター」 を開設。
2011年	1月	東京都中央区日本橋室町に室町本店を開設し、本社機能の一部を移転。
2013年	9月	室町トレーディングルームを開設。
2020年	7月	2020年7月末拠点数：62拠点

(2) 経営の組織 (2020年5月1日現在)

当社の経営組織の概要は、次のとおりであります。



4. 株式の保有数の上位 10 位までの株主の氏名又は名称並びにその株式の保有数及び総株主等の議決権に占める当該株式に係る議決権の数の割合

(2020年3月31日現在)

氏名又は名称	保有株式数	割合
株式会社岡三証券グループ	100千株	100.00%

5. 役員の氏名又は名称

(2020年3月31日現在)

役職名	氏名	担当職	代表権の有無	常勤・非常勤の別
取締役社長 (兼 社長執行役員)	新 堂 弘 幸		有	常 勤
取 締 役 (兼 副社長執行役員)	寺 山 彰	管理部門・コンプライアンス 部門管掌	有	常 勤
取 締 役 (兼 専務執行役員)	高 松 重 之	法人営業部門・引受部門管掌 兼法人業務部共同管掌	有	常 勤
取 締 役 (兼 専務執行役員)	田 中 充	システム企画部管掌 兼企画部門担当	有	常 勤
取 締 役 (兼 専務執行役員)	村 井 博 幸	営業本部長	有	常 勤
取 締 役 (兼 常務執行役員)	早 川 政 博	人事部門・秘書室担当	無	常 勤
取 締 役	加 藤 哲 夫		無	常 勤
取 締 役	新 芝 宏 之		有	常 勤
取 締 役	成 川 哲 夫		無	非常勤
監 査 役	吉 村 健 也		—	常 勤
監 査 役	久 下 美 恵 子		—	非常勤
監 査 役	白 井 壯 之 介		—	非常勤
監 査 役	浜 田 裕 治		—	非常勤

なお、最近日現在の役員の氏名及び担当職等は次のとおりであります。

(2020年6月1日現在)

役職名	氏名	担当職	代表権の有無	常勤・非常勤の別
取締役会長	新芝宏之		有	常勤
取締役社長 (兼社長執行役員)	江越誠		有	常勤
取締役 (兼副社長執行役員)	寺山彰	管理部門・コンプライアンス 部門管掌	有	常勤
取締役 (兼専務執行役員)	田中充	営業統括部門管掌兼岡三とう きょうカンパニー担当	有	常勤
取締役 (兼専務執行役員)	村井博幸	金融法人部門・法人営業部門・ 投資銀行部門管掌兼法人業務部 担当	有	常勤
取締役 (兼常務執行役員)	早川政博	人事部門・秘書室担当	無	常勤
取締役 (兼常務執行役員)	池田嘉宏	企画部門担当	無	常勤
取締役	加藤哲夫		無	常勤
取締役	成川哲夫		無	非常勤
監査役	吉村健也		—	常勤
監査役	久下美恵子		—	非常勤
監査役	臼井壯之介		—	非常勤
監査役	浜田裕治		—	非常勤

6. 政令で定める使用人の氏名

(1) 金融商品取引業に関し、法令等を遵守させるための指導に関する業務を統括する使用人

(2020年3月31日現在)

氏 名	役 職 名
豊 永 聡	上席執行役員（内部監査部担当）
林 俊 男	理事（内部監査部副担当）
太 田 順 二	内部監査部長
下 畑 孝 行	上席執行役員（コンプライアンス部門副管掌兼 取引審査部・法務部担当）
村 田 尚 士	理事（コンプライアンス部担当）
船 津 典 彦	コンプライアンス部長
山 中 邦 裕	取引審査部長
東 徹	法務部長

(注) 2020年4月1日付で太田順二が理事（内部監査部担当）に、竹澤孝夫が内部監査部長に、古林理恵子が取引審査部長に、橋本英樹が法務部長にそれぞれ就任しております。

(2) 投資助言業務又は投資運用業に関し、助言又は運用を行う部門を統括する使用人

(2020年3月31日現在)

氏 名	役 職 名
益 子 勇	法人業務部長

7. 業務の種別

(1) 金融商品取引業

(2020年3月31日現在)

業 務 の 種 別
①第一種金融商品取引業 <ul style="list-style-type: none"> ・金融商品取引法第28条第1項第1号に掲げる行為に係る業務 <ul style="list-style-type: none"> a. 有価証券の売買、市場デリバティブ取引又は外国市場デリバティブ取引 b. 有価証券の売買、市場デリバティブ取引又は外国市場デリバティブ取引の媒介、取次ぎ又は代理 c. 取引所金融商品市場における有価証券の売買又は市場デリバティブ取引の委託の媒介、取次ぎ又は代理 d. 外国金融商品市場における有価証券の売買又は外国市場デリバティブ取引の委託の媒介、取次ぎ又は代理 e. 有価証券等清算取次ぎ f. 有価証券の売出し g. 有価証券の募集若しくは売出しの取扱い又は私募の取扱い ・金融商品取引法第28条第1項第2号に掲げる行為に係る業務 <ul style="list-style-type: none"> a. 店頭デリバティブ取引又はその媒介、取次ぎ若しくは代理 b. 店頭デリバティブ取引についての有価証券等清算取次ぎ ・有価証券の引受け ・有価証券等管理業務
②第二種金融商品取引業
③投資助言・代理業

(2) 金融商品取引業に付随する業務

(2020年3月31日現在)

業 務 の 種 別
①有価証券の貸借業務並びにその媒介及び代理業務
②信用取引に付随する金銭の貸付業務
③保護預り有価証券担保貸付業務
④有価証券に関する顧客の代理業務
⑤受益証券に係る収益金、償還金及び解約金の支払いに係る代理業務
⑥投資証券等に係る金銭の分配、払戻金及び残余財産の分配並びに利息及び償還金の支払いに係る代理業務
⑦累積投資契約の締結業務
⑧有価証券に関連する情報の提供及び助言（金融商品取引法第2条第8項第11号に掲げる行為に該当するものを除く。）業務
⑨他の事業者の事業の譲渡、合併、会社の分割、株式交換及び株式移転に関する相談に応じ、並びにこれらに関し仲介を行う業務
⑩他の事業者の経営に関する相談に応じる業務
⑪譲渡性預金その他金銭債権（有価証券に該当するものを除く。）の売買及びその媒介並びに取次ぎ及び代理業務

8. 本店その他の営業所又は事務所の名称及び所在地

(2020年3月31日現在)

名 称	所 在 地
本店	〒103-8278 東京都中央区日本橋 1-17-6
本町本店	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
日本橋室町店	〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 2-2-1
岡三カスターセンター	〒111-0053 東京都台東区浅草橋 1-22-16
札幌支店	〒060-0002 北海道札幌市中央区北二条西 3-1-8
仙台支店	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町 3-6-1
勝田支店	〒312-0045 茨城県ひたちなか市勝田中央 12-15
大宮支店	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 1-7-5
柏支店	〒277-0005 千葉県柏市柏 2-6-8
八千代支店	〒276-0032 千葉県八千代市八千代台東 1-1-10
千葉支店	〒260-0015 千葉県千葉市中央区富士見 1-15-9
浅草支店	〒111-0034 東京都台東区雷門 2-4-8
池袋支店	〒171-0021 東京都豊島区西池袋 1-18-2
新宿支店	〒163-1502 東京都新宿区西新宿 1-6-1
渋谷支店	〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 1-7-7
碑文谷支店	〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 3-1-1
碑文谷支店碑文谷プレイス	〒152-0003 東京都目黒区碑文谷 4-1-1
大手町支店	〒101-0047 東京都千代田区内神田 1-6-10
虎ノ門支店	〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-1-18
大森支店	〒140-0013 東京都品川区南大井 6-28-11
八王子支店	〒192-0046 東京都八王子市明神町 4-7-15
横浜支店	〒231-0015 神奈川県横浜市中区尾上町 2-27
沼津支店	〒410-0801 静岡県沼津市大手町 2-4-1
静岡支店	〒420-0857 静岡県静岡市葵区御幸町 4-1
浜松支店	〒430-0944 静岡県浜松市中区田町 324-3
恵那支店	〒509-7201 岐阜県恵那市大井町 201-10
名古屋支店	〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅 4-5-28
金山支店	〒460-0022 愛知県名古屋市中区金山 1-13-6
長久手支店	〒480-1168 愛知県長久手市坊の後 1422
長久手支店分室	〒465-0032 愛知県名古屋市長久手区藤が丘 142-6
刈谷支店	〒448-0858 愛知県刈谷市若松町 2-101

名 称	所 在 地
金 沢 支 店	〒920-0961 石川県金沢市香林坊 1-2-20
四 日 市 支 店	〒510-0086 三重県四日市市諏訪栄町 20-11
鈴 鹿 支 店	〒513-0809 三重県鈴鹿市西条 4-87-2
津 支 店	〒514-0032 三重県津市中央 5-20
伊 賀 上 野 支 店	〒518-0861 三重県伊賀市上野東町 2920
伊 賀 支 店	〒518-0775 三重県名張市希央台 5 番町 11
松 阪 支 店	〒515-0083 三重県松阪市中町 6-8-1
伊 勢 支 店	〒516-0074 三重県伊勢市本町 11-1
志 摩 支 店	〒517-0501 三重県志摩市阿児町鶴方 4042
尾 鷲 支 店	〒519-3652 三重県尾鷲市古戸町 12-11
京 都 支 店	〒600-8007 京都府京都市下京区四条通東洞院東入立売西町 66
宮 津 支 店	〒626-0041 京都府宮津市鶴賀 2066-69
大 阪 支 店	〒541-0042 大阪府大阪市中央区今橋 1-8-7
梅 田 支 店	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田 1-12-17
阿 倍 野 支 店	〒545-0052 大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋 3-10-1-100
千 里 支 店	〒565-0862 大阪府吹田市津雲台 1-2-D9
東 大 阪 支 店	〒577-0056 大阪府東大阪市長堂 1-11-22
堺 支 店	〒590-0048 大阪府堺市堺区一条通 20-1 / 同区一条通 20-5
藤 井 寺 支 店	〒583-0027 大阪府藤井寺市岡 2-12-6
奈 良 支 店	〒630-8231 奈良県奈良市本子守町 1-1
和 歌 山 支 店	〒640-8157 和歌山県和歌山市八番丁 11
神 戸 支 店	〒650-0021 兵庫県神戸市中央区三宮町 1-1-2
姫 路 支 店	〒670-0911 兵庫県姫路市十二所前町 45
岡 山 支 店	〒700-0904 岡山県岡山市北区柳町 1-1-27
玉 野 支 店	〒706-0002 岡山県玉野市築港 2-4-12
広 島 支 店	〒730-0051 広島県広島市中区大手町 2-8-4
宇 部 支 店	〒755-0043 山口県宇部市相生町 9-7
松 山 支 店	〒790-0005 愛媛県松山市花園町 1-3
宇 和 島 支 店	〒798-0034 愛媛県宇和島市錦町 3-20
福 岡 支 店	〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 1-9-17
熊 本 支 店	〒860-0803 熊本県熊本市中央区新市街 11-18

9. 他に行っている事業の種類

(2020年3月31日現在)

他に行っている事業の種類
①貸金業その他金銭の貸付け又は金銭の貸借の媒介に係る業務
②組合契約の締結並びにその媒介、取次ぎ及び代理業務
③匿名組合契約の締結並びにその媒介、取次ぎ及び代理業務
④保険業法に規定する保険募集
⑤確定拠出年金法に規定する確定拠出年金運営管理業
⑥国民年金基金連合会の委託を受けて行う個人型年金に係る受付業務
⑦信託業法に規定する信託契約代理業
⑧信託兼営金融機関が行う遺言執行及び遺産整理に係る契約締結の媒介業務
⑨顧客に対し他の事業者のあっせん又は紹介を行う業務

10. 指定紛争解決機関及び加入する金融商品取引業協会等の名称
 - (1) 指定紛争解決機関（第一種金融商品取引業）
特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センター
 - (2) 加入する金融商品取引業協会
日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人第二種金融商品取引業協会
 - (3) 対象事業者となる認定投資者保護団体（第二種金融商品取引業）
特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センター

11. 会員又は取引参加者となる金融商品取引所の名称又は商号
札幌証券取引所、東京証券取引所、大阪取引所、名古屋証券取引所、福岡証券取引所、東京金融取引所

12. 加入する投資者保護基金の名称
日本投資者保護基金

13. 金融商品取引業等に関する内閣府令第7条第3号イ及び第3号の2から第9号までに掲げる事項のうち当社が行う業務
有価証券関連業

14. 苦情処理及び紛争解決の体制
 - (1) 第一種金融商品取引業
特定非営利活動法人証券・金融商品あっせん相談センター（以下、「F I N M A C」という。）との間で特定第一種金融商品取引業務に係る手続実施基本契約を締結する措置
 - (2) 第二種金融商品取引業
一般社団法人第二種金融商品取引業協会（F I N M A Cに業務委託）を利用する措置
 - (3) 投資助言・代理業
一般社団法人日本投資顧問業協会（F I N M A Cに業務委託）を利用する措置

II. 業務の状況に関する事項

1. 当期の業務の概要

当年度におけるわが国経済は、年度後半を中心に減速の動きが見られました。米中貿易摩擦を発端とした世界経済の減速により、輸出は前年同月比でマイナスが続いたほか、秋の大型台風による被害も生産活動に影響を与えました。また10月以降も、消費税増税による個人消費の鈍化に加え、新型コロナウイルス感染症の拡大による観光業や外食産業などを中心とした企業景況感の悪化など、経済の減速感は一段と強まりました。他方、失業率は概ね2%台前半で推移しましたが、消費者物価指数の上昇率はほぼ横ばいでの推移となり、物価上昇の勢いはさらに鈍化しました。

こうした環境のなか日経平均株価は、米中通商協議の動向や先進国の金融政策を意識しながら、秋口にかけて概ね20,000円～22,000円を中心としたレンジで推移しました。10月以降、消費税増税による個人消費の落ち込みが懸念されたものの、米中摩擦の緩和期待から連日史上最高値を更新し続ける米国株式市場の動きなどを好感し、日経平均株価も年末年始にかけて約1年2か月ぶりとなる24,000円台を回復しました。また外国為替市場でも、対ドルでは夏場にかけて円高含みの展開となったものの、夏場以降は米中協議の進展などを受けて緩やかな円安ドル高基調となりました。

しかし、年度末にかけては、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大による混乱が各方面に広がり、金融市場にもリスク回避の動きとして波及しました。為替市場では値幅が急拡大し、不安定な推移となりました。対ドルでは、3月上旬に一時1ドル＝101円近辺まで円が急騰した一方、世界的にリスク回避を目的としたドルの手元流動性を確保する動きが強まると一転、3月下旬には1ドル＝111円台まで円安ドル高が進行しました。

株式市場においても景気や企業業績の悪化懸念が広がり、特に2月後半以降は売り圧力が急速に強まりました。米国では3月にニューヨークダウ平均株価が過去最大の下落幅を記録したほか、日経平均株価も一時、約3年4か月ぶりとなる16,000円台をつけるなど、株式市場は世界的に急落の動きとなりました。ただし、日本を始めとする各国政府と中央銀行が大規模な経済対策と金融緩和策を矢継ぎ早に打ち出し、一定の安心感につながったことから株式市場は値を戻し、日経平均株価は18,917円1銭で年度末の取引を終えました。

こうした事業環境において、当社では、市況に即した投資情報と多様な商品ラインアップを活用した地域密着型の営業活動を引き続き展開しました。

以上の結果、当年度における当社の営業収益は493億71百万円（前年度比95.3%）、純営業収益は485億43百万円（同95.5%）となりました。販売費・一般管理費は472億30百万円（同96.0%）となり、経常利益は16億47百万円（同90.6%）、当期純利益は3億99百万円（同36.5%）となりました。

【受入手数料】

受入手数料の合計は261億8百万円（前年度比91.2%）となりました。主な内訳は次のとおりです。

① 委託手数料

当年度における東証の1日平均売買高（内国普通株式）は17億10百万株（前年度比92.5%）、売買代金は2兆7,835億円（同91.2%）となりました。こうしたなか、株式委託手数料は108億46百万円（同105.6%）となりました。また、債券委託手数料は0百万円（同7.6%）、その他の委託手数料は4億2百万円（同123.2%）となり、委託手数料の合計は112億49百万円（同106.1%）となりました。

② 引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料

当年度における株式の引受けは、主幹事案件が3件あったものの前年度に大型の新規公開案件があった反動から引受金額が減少しました。一方、債券の引受けは、主幹事獲得や個人投資家向け債券の引受けなどにより、主に事業債の引受金額が増加しました。

これらの結果、株式の手数料は1億51百万円（前年度比26.7%）、債券の手数料は2億31百万円（同214.5%）となり、株式・債券を合わせた引受け・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の手数料の合計は3億83百万円（同56.7%）となりました。

③ 募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料、その他の受入手数料

募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料、その他の受入手数料につきましては、投資信託関連収益がその大半を占めています。

当年度における公募投資信託の販売額は、米中貿易問題に起因した投資家心理の悪化や世界的な新型コロナウイルス感染症流行に伴う経済の収縮懸念から、前年度比で減少しました。米国の高利回り資産に投資するファンドや、リスクの抑制・分散が期待できるソブリン債ファンドやバランス型ファンドの販売額は増加した一方、国内外の株式型ファンドを中心に販売額が減少しました。

これらの結果、募集・売出し・特定投資家向け売付け勧誘等の取扱手数料は86億59百万円（前年度比80.9%）となりました。また、その他の受入手数料については、主に投資信託の信託報酬等により58億16百万円（同87.8%）となりました。

【トレーディング損益】

株券等トレーディング損益は主に米国株式を中心とした外国株式の国内店頭取引、債券等トレーディング損益は外国債券の顧客向け取扱いに伴う収益がその大半を占めています。

当年度においては、米中摩擦や新型コロナウイルス感染症の世界的流行など世界経済の先行き不安が意識される状況が続いたことから、外国株式の国内店頭取引にかかる個人の売買は前年度比で減少しました。一方で、外国債券はESG債の取扱いなども寄与し、販売額が前年度比で増加しました。

これらの結果、株券等トレーディング損益は101億64百万円（前年度比79.1%）、債券等トレーディング損益は117億5百万円（同127.1%）となり、その他のトレーディング損益は1億82百万円（前年度は53百万円の損失）を含めたトレーディング損益の合計は220億53百万円（前年度比100.2%）となりました。

【金融収支】

金融収益は12億9百万円（前年度比101.7%）、金融費用は8億27百万円（同86.5%）となり、差引の金融収支は3億82百万円（同164.5%）となりました。

【販売費・一般管理費】

販売費・一般管理費は、人件費や取引関係費の減少等により、472億30百万円（前年度比96.0%）となりました。

【営業外損益及び特別損益】

営業外収益は4億18百万円、営業外費用は84百万円となりました。また、特別損失は減損損失等の計上により5億22百万円となりました。

2. 業務の状況を示す指標

(1) 経営成績等の推移

(単位：百万円)

区分 \ 期別	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
資 本 金	5,000	5,000	5,000
発 行 済 株 式 総 数	100,000 株	100,000 株	100,000 株
営 業 収 益	63,244	51,802	49,371
(受 入 手 数 料)	(36,266)	(28,612)	(26,108)
((委 託 手 数 料))	((15,254))	((10,602))	((11,249))
((引受け・売出し・特定投資家 向け売付け勧誘等の手数料))	((627))	((676))	((383))
((募集・売出し・特定投資家向 け売付け勧誘等の取扱手数料))	((13,589))	((10,705))	((8,659))
((その他の受入手数料))	((6,795))	((6,627))	((5,816))
(トレーディング損益)	(25,748)	(22,001)	(22,053)
((株券等トレーディング損益))	((18,236))	((12,843))	((10,164))
((債券等トレーディング損益))	((7,577))	((9,210))	((11,705))
((その他のトレーディング損益))	((△66))	((△53))	((182))
純 営 業 収 益	62,193	50,845	48,543
経 常 損 益	12,174	1,818	1,647
当 期 純 損 益	8,377	1,093	399

(2) 有価証券引受・売買等の状況

① 株券の売買高の推移（先物取引を除く）

(単位：百万円)

区分 \ 期別	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
自 己	4,395,020	4,073,214	2,719,058
委 託	8,694,986	7,461,323	6,983,871
計	13,090,006	11,534,537	9,702,930

② 有価証券の引受け及び売出し並びに特定投資家向け売付け勧誘等並びに有価証券の募集、
売出し及び私募の取扱い並びに特定投資家向け売付け勧誘等の取扱いの状況

(単位：百万円)

区 分		引 受 高	売 出 高	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の総額	募 集 の 取 扱 高	売 出 し の 取 扱 高	私 募 の 取 扱 高	特定投資 家向け売 付け勧誘 等の取扱 高
2018年 3月期	株 券	22,180	22,853	—	—	1	—	—
	国 債 証 券	—	—	—	10,328	—	—	—
	地 方 債 証 券	193,718	—	—	193,718	—	—	—
	特 殊 債 券	84,100	—	—	96,100	—	—	—
	社 債 券	748,500 (—)	135,955 (135,955)	— (—)	54,700 (—)	— (—)	689,600 (—)	— (—)
	受 益 証 券	—	—	—	1,547,682	—	355,991	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—
2019年 3月期	株 券	20,197	22,106	—	—	—	—	—
	国 債 証 券	—	—	—	8,494	—	—	—
	地 方 債 証 券	232,572	—	—	232,572	—	—	—
	特 殊 債 券	72,800	—	—	84,800	—	—	—
	社 債 券	747,800 (—)	165,795 (165,795)	— (—)	61,800 (—)	— (—)	683,500 (—)	— (—)
	受 益 証 券	—	—	—	1,088,663	—	177,914	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—
2020年 3月期	株 券	3,083	2,848	—	—	—	—	—
	国 債 証 券	—	—	—	8,295	—	—	—
	地 方 債 証 券	236,729	—	—	236,729	—	—	—
	特 殊 債 券	125,900	—	—	125,900	—	—	—
	社 債 券	681,450 (—)	156,043 (156,043)	— (—)	115,750 (—)	— (—)	557,200 (—)	— (—)
	受 益 証 券	—	—	—	1,129,526	—	366,823	—
	そ の 他	—	—	—	—	—	—	—

(注) () 内は、外国証券に係る数値で、内書きであります。

(3) その他業務の状況

① 保険業法に規定する保険募集の状況

期 別	取 扱 高
2018年3月期	324百万円
2019年3月期	760百万円
2020年3月期	154百万円

② 確定拠出年金運営管理業務の状況

期 別	企 業 型		個 人 型	
	受託件数	拠出残高	受託件数	拠出残高
2018年3月期	4件	4,578百万円	128件	1,775百万円
2019年3月期	4件	4,809百万円	106件	1,927百万円
2020年3月期	4件	4,899百万円	98件	2,086百万円

③ 顧客に対し他の事業者のあっせん又は紹介を行う業務の状況

期 別	契 約 件 数
2018年3月期	—
2019年3月期	3件
2020年3月期	3件

当社が行っております上記以外のその他業務の内容につきましては、「I. 当社の概況及び組織に関する事項 9. 他にしている事業の種類」をご覧ください。

(4) 自己資本規制比率の状況

(単位：百万円)

区 分		期 別	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期
基 本 的 項 目		(A)	79,354	76,448	73,844
補 完 的 項 目	その他有価証券評価差額金(評価益)		17	4	—
	金融商品取引責任準備金		846	836	836
	一般貸倒引当金		6	11	—
	短期劣後債務		6,000	4,000	6,000
計		(B)	6,870	4,852	6,836
控 除 資 産		(C)	11,100	11,902	13,007
固定化されていない自己資本の額		(A) + (B) - (C) (D)	75,124	69,397	67,672
リ ス ク 相 当 額	市場リスク相当額		2,225	2,087	2,015
	取引先リスク相当額		1,224	988	958
	基礎的リスク相当額		12,569	12,582	11,763
計		(E)	16,019	15,657	14,737
自己資本規制比率		(D) / (E) × 100	468.9%	443.2%	459.1%

(注) 短期劣後債務は劣後特約付借入金であります。

(5) 使用人の総数及び外務員の総数

(単位：人)

区 分	2018年3月期末	2019年3月期末	2020年3月期末
使 用 人	2,593	2,649	2,483
(うち 外務員)	2,512	2,580	2,404

Ⅲ. 財産の状況に関する事項

1. 経理の状況

(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
	金 額		金 額	
(資 産 の 部)				
流 動 資 産				
現 金 ・ 預 金		20,543		24,701
預 託 金		32,379		52,557
顧 客 分 別 金 信 託	32,300		52,500	
そ の 他 の 預 託 金	79		57	
ト レ ー デ ィ ン グ 商 品		92,708		122,352
商 品 有 価 証 券 等	92,692		122,138	
デ リ バ テ ィ ブ 取 引	16		214	
約 定 見 返 勘 定		8,869		—
信 用 取 引 資 産		27,989		27,717
信 用 取 引 貸 付 金	21,994		19,104	
信 用 取 引 借 証 券 担 保 金	5,994		8,613	
有 価 証 券 担 保 貸 付 金		62,640		32,221
借 入 有 価 証 券 担 保 金	29		—	
現 先 取 引 貸 付 金	62,611		32,221	
立 替 金		855		917
短 期 差 入 保 証 金		3,184		7,990
有 価 証 券 等 引 渡 未 了 勘 定		1		5
短 期 貸 付 金		162		134
未 収 収 益		1,470		1,166
そ の 他 の 流 動 資 産		1,490		996
貸 倒 引 当 金		△ 11		△ 0
流 動 資 産 計		252,283		270,761
固 定 資 産				
有 形 固 定 資 産		2,920		2,508
建 物	2,044		1,461	
器 具 備 品	849		684	
リ ー ス 資 産	26		361	
無 形 固 定 資 産		446		386
ソ フ ト ウ ェ ア	285		254	
そ の 他	161		131	
投 資 そ の 他 の 資 産		7,671		9,301
投 資 有 価 証 券	971		979	
長 期 差 入 保 証 金	3,670		5,102	
繰 延 税 金 資 産	1,793		1,856	
そ の 他	1,921		2,047	
貸 倒 引 当 金	△ 685		△ 683	
固 定 資 産 計		11,038		12,195
資 産 合 計		263,321		282,957

(単位：百万円)

科 目	前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
	金	額	金	額
(負債の部)				
流動負債				
トレーディング商品		64,541		66,530
商品有価証券等	64,534		66,373	
デリバティブ取引	6		156	
約定見返勘定		—		5,023
信用取引負債		11,097		12,851
信用取引借入金	1,638		1,594	
信用取引貸証券受入金	9,458		11,256	
有価証券担保借入金		—		3,000
現先取引借入金	—		3,000	
預り金		28,510		28,004
受入保証金		6,647		8,333
有価証券等受入未了勘定		20		4,194
短期借入金		59,815		59,515
未払金		512		851
未払法人税等		12		408
賞与引当金		1,450		1,580
その他の流動負債		2,057		1,965
流動負債計		174,665		192,259
固定負債				
長期借入金		700		6,000
退職給付引当金		5,131		5,238
資産除去債務		1,155		1,155
その他の固定負債		380		623
固定負債計		7,367		13,017
特別法上の準備金				
金融商品取引責任準備金		836		836
特別法上の準備金計		836		836
負債合計		182,869		206,113
(純資産の部)				
株主資本				
資本金		5,000		5,000
資本剰余金	29,199		29,199	
資本準備金		29,199		29,199
資本剰余金合計				
利益剰余金				
その他利益剰余金				
別途積立金	10,000		10,000	
繰越利益剰余金	36,248		32,647	
利益剰余金合計		46,248		42,647
株主資本合計		80,448		76,847
評価・換算差額等				
その他有価証券評価差額金		4		△ 3
評価・換算差額等合計		4		△ 3
純資産合計		80,452		76,844
負債・純資産合計		263,321		282,957

(2) 損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前事業年度 〔 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 〕		当事業年度 〔 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 〕	
	金 額		金 額	
営業収益		28,612		26,108
受入手数料	10,602		11,249	
委託手数料	676		383	
引受け・売出し・特定投資家 向け売付け勧誘等の手数料	10,705		8,659	
募集・売出し・特定投資家 向け売付け勧誘等の取扱手数料	6,627		5,816	
その他の受入手数料				
トレーディング損益		22,001		22,053
金融収益		1,189		1,209
営業収益計		51,802		49,371
金融費用		956		827
純営業収益		50,845		48,543
販売費・一般管理費				
取引関係費		7,570		7,267
人件費		24,778		23,532
不動産関係費		6,904		6,746
事務費		7,821		7,777
減価償却費		481		477
租税公課		615		606
貸倒引当繰入れ		16		△ 12
その他の		1,027		835
販売費・一般管理費計		49,216		47,230
営業利益		1,629		1,312
営業外収益		258		418
営業外費用		69		84
経常利益		1,818		1,647
特別利益				
金融商品取引責任準備金戻入		10		—
特別利益計		10		—
特別損失				
減損損失		—		502
投資有価証券評価減		—		19
特別損失計		—		522
税引前当期純利益		1,829		1,124
法人税、住民税及び事業税	361		784	
法人税等調整額	374		△ 59	
法人税等合計		735		724
当期純利益		1,093		399

(3) 株主資本等変動計算書

前事業年度（自 2018 年 4 月 1 日 至 2019 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本						評価・ 換算差 額等 その他 有価証 券評価 差額金	純 資 産 合 計
	資本金	資 本 金	利 益 剰 余 金			株 主 資 本 合 計		
		資 本 金	その他利益剰余金		利 益 剰 余 金 合 計			
			資 準 備 金	別 途 積 立 金				
当期首残高	5,000	29,199	10,000	43,154	53,154	87,354	17	87,372
事業年度中の変動額								
剰余金の配当				△ 8,000	△ 8,000	△ 8,000		△ 8,000
当期純利益				1,093	1,093	1,093		1,093
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額（純額）							△ 13	△ 13
事業年度中の変動額 合計	—	—	—	△ 6,906	△ 6,906	△ 6,906	△ 13	△ 6,919
当期末残高	5,000	29,199	10,000	36,248	46,248	80,448	4	80,452

当事業年度（自 2019 年 4 月 1 日 至 2020 年 3 月 31 日）

（単位：百万円）

	株 主 資 本						評価・ 換算差 額等 その他 有価証 券評価 差額金	純 資 産 合 計
	資本金	資 本 金	利 益 剰 余 金			株 主 資 本 合 計		
		資 本 金	その他利益剰余金		利 益 剰 余 金 合 計			
			資 準 備 金	別 途 積 立 金				
当期首残高	5,000	29,199	10,000	36,248	46,248	80,448	4	80,452
事業年度中の変動額								
剰余金の配当				△ 4,000	△ 4,000	△ 4,000		△ 4,000
当期純利益				399	399	399		399
株主資本以外の 項目の事業年度中 の変動額（純額）							△ 7	△ 7
事業年度中の変動額 合計	—	—	—	△ 3,600	△ 3,600	△ 3,600	△ 7	△ 3,608
当期末残高	5,000	29,199	10,000	32,647	42,647	76,847	△ 3	76,844

[重要な会計方針に係る事項に関する注記]

<p style="text-align: center;">前事業年度 〔 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 〕</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 〔 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 〕</p>
<p>1. トレーディングに関する有価証券等の評価基準及び評価方法 トレーディングに関する有価証券及びデリバティブ取引等については時価法を採用しております。</p>	<p>1. トレーディングに関する有価証券等の評価基準及び評価方法 同左</p>
<p>2. トレーディング関連以外の有価証券の評価基準及び評価方法 その他有価証券 (1) 時価のあるもの 決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は総平均法により算定）を採用しております。 (2) 時価のないもの 総平均法による原価法を採用しております。</p>	<p>2. トレーディング関連以外の有価証券の評価基準及び評価方法 その他有価証券 (1) 時価のあるもの 同左 (2) 時価のないもの 同左</p>

<p style="text-align: center;">前事業年度 〔 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 〕</p>	<p style="text-align: center;">当事業年度 〔 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 〕</p>				
<p>3. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 定率法を採用しております。 ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。 なお、主な耐用年数は以下のとおりです。</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>建 物</td> <td>3～50年</td> </tr> <tr> <td>器具・備品</td> <td>3～15年</td> </tr> </table> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 定額法を採用しております。なお、ソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。</p> <p>(3) リース資産 リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。</p>	建 物	3～50年	器具・備品	3～15年	<p>3. 固定資産の減価償却の方法</p> <p>(1) 有形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(2) 無形固定資産（リース資産を除く） 同左</p> <p>(3) リース資産 同左</p>
建 物	3～50年				
器具・備品	3～15年				

前事業年度 〔 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 〕	当事業年度 〔 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 〕
<p>4. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 貸付金等の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。</p> <p>(2) 賞与引当金 従業員の賞与支給に備えるため、当社所定の計算方法による支給見積額の当事業年度負担額を計上しております。</p> <p>(3) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき計上しております。 数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理することとしております。</p> <p>(4) 金融商品取引責任準備金 有価証券の売買その他の取引又はデリバティブ取引等に関して生じた事故による損失に備えるため、金融商品取引法の規定に基づき計上しております。</p>	<p>4. 引当金の計上基準</p> <p>(1) 貸倒引当金 同左</p> <p>(2) 賞与引当金 同左</p> <p>(3) 退職給付引当金 同左</p> <p>(4) 金融商品取引責任準備金 同左</p>

前事業年度 〔 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 〕	当事業年度 〔 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 〕
<p>5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法</p> <p>① ヘッジ会計の方法 原則として繰延ヘッジ処理によっております。なお、特例処理の要件を満たしている金利スワップについては、特例処理を採用しております。</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 ヘッジ手段 … 金利スワップ ヘッジ対象 … 借入金</p> <p>③ ヘッジ方針 一部の借入金の金利変動リスクをヘッジするため金利スワップ取引を行っており、ヘッジ対象の識別は個別契約ごとに行っております。</p> <p>④ ヘッジの有効性評価の方法 特例処理の要件を満たしている金利スワップのため、有効性の評価を省略しております。</p> <p>(2) 消費税等の会計処理 消費税及び地方消費税の会計処理は、税抜方式によっております。</p> <p>(3) 連結納税制度の適用 連結納税制度を適用しております。</p>	<p>5. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項</p> <p>(1) ヘッジ会計の方法</p> <p>① ヘッジ会計の方法 同左</p> <p>② ヘッジ手段とヘッジ対象 同左</p> <p>③ ヘッジ方針 同左</p> <p>④ ヘッジの有効性評価の方法 同左</p> <p>(2) 消費税等の会計処理 同左</p> <p>(3) 連結納税制度の適用 同左</p>

[表示方法の変更に関する注記]

前事業年度 〔 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日 〕	当事業年度 〔 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日 〕
<p>(『税効果会計に係る会計基準』の一部改正等の適用)</p> <p>『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。</p>	-

[貸借対照表に関する注記]

前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)																												
<p>1. 担保に供している資産の状況</p> <p>担保に供している資産の状況は、次のとおりであります。なお、担保に供している資産の価額は貸借対照表計上額によっております。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">商品有価証券等</td> <td style="text-align: right;">7,450 百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 上記のほか、商品有価証券等を即時決済取引等の担保として 37,263 百万円を差入れています。</p> <p>(2) 担保資産の対象となる債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">6,945 百万円</td> </tr> </table> <p>2. 担保等として差入れた有価証券の時価額 (上記1を除く)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 信用取引貸証券</td> <td style="text-align: right;">9,610 百万円</td> </tr> <tr> <td>(2) 信用取引借入金の本担保証券</td> <td style="text-align: right;">1,804 百万円</td> </tr> <tr> <td>(3) 消費貸借契約により貸付けた有価証券</td> <td style="text-align: right;">101 百万円</td> </tr> <tr> <td>(4) 差入証拠金代用有価証券 (顧客の直接預託に係るものを除く)</td> <td style="text-align: right;">622 百万円</td> </tr> <tr> <td>(5) その他担保として差入れた有価証券</td> <td style="text-align: right;">32,521 百万円</td> </tr> </table>	商品有価証券等	7,450 百万円	短期借入金	6,945 百万円	(1) 信用取引貸証券	9,610 百万円	(2) 信用取引借入金の本担保証券	1,804 百万円	(3) 消費貸借契約により貸付けた有価証券	101 百万円	(4) 差入証拠金代用有価証券 (顧客の直接預託に係るものを除く)	622 百万円	(5) その他担保として差入れた有価証券	32,521 百万円	<p>1. 担保に供している資産の状況</p> <p>担保に供している資産の状況は、次のとおりであります。なお、担保に供している資産の価額は貸借対照表計上額によっております。</p> <p>(1) 担保に供している資産</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">商品有価証券等</td> <td style="text-align: right;">7,871 百万円</td> </tr> </table> <p>(注) 上記のほか、商品有価証券等を即時決済取引等の担保として 46,259 百万円を差入れています。</p> <p>(2) 担保資産の対象となる債務</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">短期借入金</td> <td style="text-align: right;">6,945 百万円</td> </tr> </table> <p>2. 担保等として差入れた有価証券の時価額 (上記1を除く)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 80%;">(1) 信用取引貸証券</td> <td style="text-align: right;">11,033 百万円</td> </tr> <tr> <td>(2) 信用取引借入金の本担保証券</td> <td style="text-align: right;">1,731 百万円</td> </tr> <tr> <td>(3) 現先取引で売却した有価証券</td> <td style="text-align: right;">3,013 百万円</td> </tr> <tr> <td>(4) 差入証拠金代用有価証券 (顧客の直接預託に係るものを除く)</td> <td style="text-align: right;">395 百万円</td> </tr> <tr> <td>(5) その他担保として差入れた有価証券</td> <td style="text-align: right;">14,200 百万円</td> </tr> </table>	商品有価証券等	7,871 百万円	短期借入金	6,945 百万円	(1) 信用取引貸証券	11,033 百万円	(2) 信用取引借入金の本担保証券	1,731 百万円	(3) 現先取引で売却した有価証券	3,013 百万円	(4) 差入証拠金代用有価証券 (顧客の直接預託に係るものを除く)	395 百万円	(5) その他担保として差入れた有価証券	14,200 百万円
商品有価証券等	7,450 百万円																												
短期借入金	6,945 百万円																												
(1) 信用取引貸証券	9,610 百万円																												
(2) 信用取引借入金の本担保証券	1,804 百万円																												
(3) 消費貸借契約により貸付けた有価証券	101 百万円																												
(4) 差入証拠金代用有価証券 (顧客の直接預託に係るものを除く)	622 百万円																												
(5) その他担保として差入れた有価証券	32,521 百万円																												
商品有価証券等	7,871 百万円																												
短期借入金	6,945 百万円																												
(1) 信用取引貸証券	11,033 百万円																												
(2) 信用取引借入金の本担保証券	1,731 百万円																												
(3) 現先取引で売却した有価証券	3,013 百万円																												
(4) 差入証拠金代用有価証券 (顧客の直接預託に係るものを除く)	395 百万円																												
(5) その他担保として差入れた有価証券	14,200 百万円																												

前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)									
<p>3. 担保等として差入れを受けた有価証券の時価額</p> <p>(1) 信用取引貸付金の 本担保証券 20,364 百万円</p> <p>(2) 信用取引借証券 5,973 百万円</p> <p>(3) 消費貸借契約に より借入れた有価 証券 101 百万円</p> <p>(4) 現先取引で買付け た有価証券 62,698 百万円</p> <p>(5) 受入保証金代用 有価証券 14,031 百万円 (再担保に供する旨 の同意を得たもの に限る)</p> <p>4. 有形固定資産より控除した減価償却累計額 3,496 百万円</p> <p>5. 保証債務 従業員からの借入に対する債務保証 残高は、次のとおりであります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">被保証者</th> <th style="text-align: center;">債務保証 残高</th> <th style="text-align: center;">被保証債務 の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">従業員 2名</td> <td style="text-align: center;">4 百万円</td> <td style="text-align: center;">金融機関よりの 住宅借入金</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">4 百万円</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>6. 関係会社に対する債権及び債務</p> <p>(1) 債権</p> <p style="padding-left: 20px;">短期債権 91 百万円</p> <p style="padding-left: 20px;">長期債権 1,366 百万円</p> <p>(2) 債務</p> <p style="padding-left: 20px;">短期債務 1,316 百万円</p> <p>7. 特別法上の準備金の計上を規定した法令の 条項</p> <p style="padding-left: 20px;">金融商品取引責任 金融商品取引法 準備金 第46条の5第1項</p>	被保証者	債務保証 残高	被保証債務 の内容	従業員 2名	4 百万円	金融機関よりの 住宅借入金	計	4 百万円		<p>3. 担保等として差入れを受けた有価証券の時価額</p> <p>(1) 信用取引貸付金の 本担保証券 15,463 百万円</p> <p>(2) 信用取引借証券 8,751 百万円</p> <p>(3) 現先取引で買付け た有価証券 31,924 百万円</p> <p>(4) 受入保証金代用 有価証券 16,509 百万円 (再担保に供する旨 の同意を得たもの に限る)</p> <p>4. 有形固定資産より控除した減価償却累計額 3,738 百万円</p> <p style="text-align: center;">—</p> <p>5. 関係会社に対する債権及び債務</p> <p>(1) 債権</p> <p style="padding-left: 20px;">短期債権 97 百万円</p> <p style="padding-left: 20px;">長期債権 1,412 百万円</p> <p>(2) 債務</p> <p style="padding-left: 20px;">短期債務 1,622 百万円</p> <p>6. 特別法上の準備金の計上を規定した法令の 条項</p> <p style="text-align: center;">同左</p>
被保証者	債務保証 残高	被保証債務 の内容								
従業員 2名	4 百万円	金融機関よりの 住宅借入金								
計	4 百万円									

前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
8. 1年内返済予定の長期借入金4,000百万円(貸借対照表上は短期借入金に含めて表示)は、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)第176条に定める劣後特約付借入金であります。	7. 長期借入金6,000百万円は、「金融商品取引業等に関する内閣府令」(平成19年内閣府令第52号)第176条に定める劣後特約付借入金であります。

[損益計算書に関する注記]

前事業年度 (自2018年4月1日 至2019年3月31日)	当事業年度 (自2019年4月1日 至2020年3月31日)
関係会社との取引高 営業取引による取引高 関係会社への営業費用 2,462百万円 営業取引以外の取引による取引高 85百万円	関係会社との取引高 営業取引による取引高 関係会社への営業費用 2,440百万円 営業取引以外の取引による取引高 85百万円

[株主資本等変動計算書に関する注記]

前事業年度(自2018年4月1日至2019年3月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	100,000株	－株	－株	100,000株
合計	100,000株	－株	－株	100,000株
自己株式				
普通株式	－株	－株	－株	－株
合計	－株	－株	－株	－株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の 総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2018年6月4日 定時株主総会	普通株式	8,000百万円	80,000円	2018年3月31日	2018年6月5日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の 総額	配当の原資	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2019年6月3日 定時株主総会	普通株式	4,000百万円	利益剰余金	40,000円	2019年3月31日	2019年6月4日

当事業年度（自 2019 年 4 月 1 日 至 2020 年 3 月 31 日）

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当事業年度期首 株式数	当事業年度 増加株式数	当事業年度 減少株式数	当事業年度末 株式数
発行済株式				
普通株式	100,000 株	－株	－株	100,000 株
合 計	100,000 株	－株	－株	100,000 株
自己株式				
普通株式	－株	－株	－株	－株
合 計	－株	－株	－株	－株

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

(決 議)	株式の種類	配当金の 総 額	1 株 当 たり 配 当 額	基 準 日	効力発生日
2019 年 6 月 3 日 定時株主総会	普通株式	4,000 百万円	40,000 円	2019 年 3 月 31 日	2019 年 6 月 4 日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度となるもの

(決 議)	株式の種類	配当金の 総 額	配当の原資	1 株 当 たり 配 当 額	基 準 日	効力発生日
2020 年 6 月 1 日 定時株主総会	普通株式	3,000 百万円	利益剰余金	30,000 円	2020 年 3 月 31 日	2020 年 6 月 2 日

[1 株当たり情報に関する注記]

前事業年度 自 2018年4月1日 至 2019年3月31日	当事業年度 自 2019年4月1日 至 2020年3月31日
1. 1株当たり純資産額 804,525円 4銭	1. 1株当たり純資産額 768,441円 20銭
2. 1株当たり当期純利益金額 10,931円 28銭	2. 1株当たり当期純利益金額 3,994円 36銭
潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。	潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2. 借入金の主要な借入先及び借入金額

(1) 短期借入金

(単位:百万円)

前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
借入先の氏名又は名称	借入金額	借入先の氏名又は名称	借入金額
(金融機関借入金)		(金融機関借入金)	
株式会社みずほ銀行	6,000	株式会社みずほ銀行	6,000
株式会社りそな銀行	5,000	株式会社りそな銀行	5,000
三井住友信託銀行株式会社	4,500	三井住友信託銀行株式会社	4,500
株式会社三菱UFJ銀行	3,945	株式会社三菱UFJ銀行	3,945
株式会社三井住友銀行	3,030	株式会社三井住友銀行	3,030
株式会社七十七銀行	2,100	株式会社七十七銀行	2,100
その他金融機関借入金	15,740	その他金融機関借入金	16,740
小計	40,315	小計	41,315
(証券金融会社借入金)		(証券金融会社借入金)	
日本証券金融株式会社	1,500	日本証券金融株式会社	1,500
小計	1,500	小計	1,500
コール・マネー	8,000	コール・マネー	10,000
共通担保オペ	5,000	共通担保オペ	5,000
(その他借入金)		(その他借入金)	
株式会社岡三証券グループ	1,000	株式会社岡三証券グループ	1,000
1年以内返済予定長期借入金	4,000	1年以内返済予定長期借入金	700
合計	59,815	合計	59,515

(2) 長期借入金

(単位:百万円)

前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
借入先の氏名又は名称	借入金額	借入先の氏名又は名称	借入金額
株式会社みずほ銀行(※)	1,200 (1,200)	株式会社みずほ銀行(※)	1,800 (-)
株式会社りそな銀行(※)	1,000 (1,000)	株式会社りそな銀行(※)	1,500 (-)
三井住友信託銀行株式会社(※)	1,000 (1,000)	三井住友信託銀行株式会社(※)	1,500 (-)
株式会社三菱UFJ銀行(※)	800 (800)	株式会社三菱UFJ銀行(※)	1,200 (-)
日本生命保険相互会社	500 (-)	日本生命保険相互会社	500 (500)
明治安田生命保険相互会社	200 (-)	明治安田生命保険相互会社	200 (200)
合 計	4,700 (4,000)	合 計	6,700 (700)

(注) 1. 括弧内は内書で、1年以内返済予定額であります。

2. (※)は、劣後特約付借入金であります。

(3) 信用取引借入金

(単位:百万円)

前事業年度 (2019年3月31日)		当事業年度 (2020年3月31日)	
借入先の氏名又は名称	借入金額	借入先の氏名又は名称	借入金額
日本証券金融株式会社	1,638	日本証券金融株式会社	1,594
合 計	1,638	合 計	1,594

3. 保有する有価証券（トレーディング商品に属するものとして経理された有価証券を除く。）の
取得価額、時価及び評価損益

(1) その他有価証券で時価のあるもの

(単位：百万円)

	前事業年度 (2019年3月31日)			当事業年度 (2020年3月31日)		
	取得価額	時 価	評価損益	取得価額	時 価	評価損益
1. 流動資産						
(1)株 券	－	－	－	－	－	－
(2)債 券	－	－	－	－	－	－
(3)その他	－	－	－	－	－	－
2. 固定資産						
(1)株 券	64	71	6	64	60	△4
(2)債 券	－	－	－	－	－	－
(3)その他	－	－	－	－	－	－
合 計	64	71	6	64	60	△4

(2) 時価評価されていないその他有価証券の貸借対照表計上額

(単位：百万円)

区 分	前事業年度 (2019年3月31日)	当事業年度 (2020年3月31日)
固定資産		
株式（非上場株式）	574	553
その他	325	365

4. デリバティブ取引（トレーディング商品に属するものとして経理された取引を除く。）の契約価額、時価及び評価損益
- 該当事項はありません。

5. 財務諸表に関する会計監査人等による監査の有無

当社は、2019年3月期（2018年4月1日から2019年3月31日まで）及び2020年3月期（2019年4月1日から2020年3月31日まで）の貸借対照表及び損益計算書並びに株主資本等変動計算書について、会計監査人である東陽監査法人による会社法第436条第2項第1号に基づく監査を受けております。

IV. 管理の状況

1. 内部管理の状況の概要

当社では、証券会社の持つ社会的責任と公共性を強く認識し、コンプライアンスの充実を経営の最重要課題ととらえ、法令や社会的規範の遵守の徹底、企業倫理の確立に日々努めております。

(1) コンプライアンス態勢

取締役会をコンプライアンス最高責任機関とし、コンプライアンスに関する重要事項については、代表権のある役員を「内部管理統括責任者」として、コンプライアンス関係諸事項を統括管理させています。「内部管理統括責任者」の下に「内部管理統括補助責任者」を、各営業店には「営業責任者」と「内部管理責任者」を配置して、金融商品取引法その他の法令諸規則等の遵守、投資勧誘や顧客管理が適正に行なわれるよう意識醸成や教育指導を行い、コンプライアンスの徹底を図っております。また、コンプライアンス関係諸事項を担当する部署として、コンプライアンス部門にコンプライアンス部、法務部、取引審査部の3部を置いて、法令遵守態勢や顧客保護に関する管理態勢の整備・確立を図っているほか、社長直轄の独立部署である内部監査部が内部監査機能を担っております。

(2) コンプライアンスの実践

全役職員が業務を遂行する上でのコンプライアンスの基本的な心構えとして、「倫理コード」を制定し、イントラネットに掲載して全職員に周知徹底するとともに、当社ホームページで公表しております。コンプライアンスの取組みとしては、コンプライアンス状況を点検する社内検査をはじめ、顧客取引のモニタリング、各種研修を開催するなどにより、コンプライアンス実践の充実・強化に努めております。

(3) 内部管理部门等の組織

内部管理部门等の組織、部署別の業務分掌につきましては下記のとおりであります。

部名	業務分掌	部名	業務分掌
コンプライアンス部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 残高照合に関する事項 2. 顧客の有価証券等の売買その他の取引等の状況の考査に関する事項 3. 管理資料による顧客管理に関する事項 4. 営業員の営業活動の状況の考査に関する事項 5. 営業店検査に関する事項 6. 特定顧客の情報に関する事項 7. 証券事故に関する処理 8. 苦情、紛争及び事故に関する調査及び処理 9. 事故等の立替金の管理及び処理に関する事項 	取引審査部	<ol style="list-style-type: none"> 5. 利益相反管理体制の整備に関する事項
取引審査部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 有価証券等の価格形成動向の監視に関する事項 2. 内部者取引の未然防止のための情報管理・顧客管理・売買管理に関する事項 3. 役職員自己取引の管理に関する事項 4. 利益相反のおそれのある取引等の管理に関する事項 	法務部	<ol style="list-style-type: none"> 1. 顧客等との訴訟、調停等に関する事項 2. 顧客等との紛争についての法律事項 3. 裁判所、行政当局等からの照会に関する事項 4. 契約書等対外的重要文書の作成に関する助言・審査 5. 業務運営に必要な関係諸法令・諸規則に係る調査、研究及び指導に関する事項 6. その他当会社の業務全般に関する法律指導
		内部監査部	内部監査に関する事項

2. 分別管理等の状況

(1) 金融商品取引法第43条の2の規定に基づく分別管理の状況

当社では、東陽監査法人に、日本公認会計士協会が定める業種別委員会実務指針第54号に準拠した「顧客資産の分別管理の法令遵守に関する保証業務」を依頼しております。

2020年3月31日現在において当社は、顧客資産の分別管理に関する経営者報告書における経営者の主張が、全ての重要な点において法令及び規則に準拠して記載されているものと認められる主旨の保証報告書を、同監査法人より受領しています。詳細は、当社Webサイト (<http://www.okasan.co.jp/about/businessinfo/2019.html>) をご覧ください。

① 顧客分別金信託の状況

項目	2019年3月31日現在の金額	2020年3月31日現在の金額
直近差替計算基準日の顧客分別金必要額	32,227 百万円	52,354 百万円
顧客分別金信託額	32,300 百万円	52,500 百万円
期末日現在の顧客分別金必要額	29,283 百万円	30,460 百万円

② 有価証券の分別管理の状況

イ. 保護預り等有価証券

有価証券の種類			2019年3月31日現在			
			国内証券	外国証券		
株	券	株数	1,224,829 千株	164,382 千株		
債	券	額面金額	775,322 百万円	445,955 百万円		
受	益	証	口	数	2,339,562 百万口	4,955 百万口
その他	新株予約権証券	ワラント	2	4,242 ワラント		
	コマーシャル・ヘーパ	額面金額	78,400 百万円	—		
	日本型預託証券	金額	430 百万円	—		

有価証券の種類			2020年3月31日現在			
			国内証券	外国証券		
株	券	株数	1,241,843 千株	156,430 千株		
債	券	額面金額	763,488 百万円	483,366 百万円		
受	益	証	口	数	2,213,767 百万口	6,928 百万口
その他	新株予約権証券	ワラント	1 千個	4,142 ワラント		
	コマーシャル・ヘーパ	額面金額	54,900 百万円	—		
	日本型預託証券	金額	746 百万円	—		

ロ. 受入保証金代用有価証券

有価証券の種類		2019年3月31日現在	2020年3月31日現在
株 券	株 数	29,079 千株	26,960 千株
債 券	額面金額	5 百万円	66 百万円
受 益 証 券	口 数	3,895 百万口	2,743 百万口
その他（日本型 預託証券）	金 額	21 百万円	22 百万円

注) 受入保証金代用有価証券のうち、顧客分別金の計算の対象とされる第三者への再担保差入はありません。

<参考時価情報>

株券の参考時価情報

保護預り等有価証券

2019年3月31日現在		2020年3月31日現在	
国内証券	外国証券	国内証券	外国証券
1,671,569 百万円	133,880 百万円	1,438,337 百万円	202,355 百万円

受入保証金代用有価証券

2019年3月31日現在	2020年3月31日現在
27,557 百万円	26,318 百万円

ハ. 管理の状況

顧客の有価証券は、法令を遵守して下記のように分別管理しております。

有価証券の種類	会社の管理形態
国内上場株券 上場新株予約権付社債券 上場投資証券等 上場出資証券 上場新株予約権証券	原則として、「社債、株式等の振替に関する法律」に基づき、当社は口座管理機関として証券保管振替機構において、自己口座と顧客口座に区分した振替口座簿により当社の固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理しております。顧客有価証券に係る各顧客の持分については、当社の帳簿等により、直ちに判別できるよう管理しています。但し、日本銀行出資証券につきましては、券面不発行対象外であるため、当社金庫において固有有価証券等の管理場所と明確に区分し、単純保管の場合は、どの顧客の有価証券であるかが直ちに判別できる状態で管理し、混合保管の場合は、帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。
国内上場外国株券	「社債、株式等の振替に関する法律」に基づき、当社は口座管理機関として証券保管振替機構において、自己口座と顧客口座に区分した振替口座簿により当社の固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理し、混合して管理しています。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。

<p>新株予約権付社債以外の 国内債券</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・当社金庫において、帳簿等により当社の固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理し、混合して管理しています。顧客有価証券については、当社の帳簿等により各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。 ・国債及びその他の債券の券面不発行分については、「社債、株式等の振替に関する法律」に基づき、当社は口座管理機関として国債は日本銀行において、その他の債券は証券保管振替機構において自己口座と顧客口座に区分した振替口座簿により固有有価証券と顧客有価証券とを区分管理しております。顧客有価証券に係る各顧客の持分については、当社の帳簿等により、直ちに判別できるよう管理しています。
<p>国内投資信託受益証券 国内投資信託受益権 上場投資信託受益権</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国内投資信託受益証券については、当社金庫にて帳簿等により固有有価証券等と顧客有価証券とを区分管理し、混合して管理しています。顧客有価証券に係る各顧客の持分については、当社の帳簿等により直ちに判別できるよう管理しています。 ・国内投資信託受益権及び上場投資信託受益権については、「社債、株式等の振替に関する法律」に基づき、当社は口座管理機関として証券保管振替機構において、自己口座と顧客口座に区分した振替口座簿により固有有価証券と顧客有価証券とを区分管理しております。顧客有価証券に係る各顧客の持分については、当社の帳簿等により、直ちに判別できるよう管理しています。
<p>外国株券 外国債券 外国投資信託受益証券等</p>	<p>海外の保管機関において、固有有価証券等と顧客有価証券とを区分させ、顧客有価証券に係る各顧客の持分は、当社の帳簿等により直ちに判別できる状態で混合して管理しています。但し、上海証券取引所上場株式、シンセン証券取引所上場株式については、当社の帳簿等により、固有有価証券分と顧客有価証券分とを区分し、顧客有価証券に係る各顧客の持分が直ちに判別できるよう管理しています。</p>

(2) 金融商品取引法第 43 条の 2 の 2 の規定に基づく区分管理の状況

該当ありません。

(3) 金融商品取引法第 43 条の 3 の規定に基づく区分管理の状況

該当ありません。

V. 連結子会社等の状況に関する事項

1. 企業集団の構成

該当ありません。

2. 子会社等の商号又は名称、本店又は主たる事務所の所在地、資本金の額、事業の内容等

該当ありません。

(ご参考) 当社プロフィール要約

商 号： 岡三証券株式会社
 Webサイト： <http://www.okasan.co.jp>
 設 立： 2003年4月
 資 本 金： 50億円
 代 表 者： 取締役社長 江越 誠 (2020年4月就任)
 従 業 員 数： 2,483人 (2020年3月末)
 (うち登録外務員数 2,404人)

金融商品取引業の登録状況： 第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業、投資助言・代理業

登 録 番 号： 関東財務局長(金商)第53号

加 入 協 会： 日本証券業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会
 一般社団法人第二種金融商品取引業協会

加 入 取 引 所： 札幌証券取引所、東京証券取引所、大阪取引所、名古屋証券取引所、
 福岡証券取引所、東京金融取引所

加入投資者保護基金： 日本投資者保護基金

指 定 紛 争 解 決 機 関： 特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター
 (略称：FINMAC)

【個人・一般事業法人向けの商品・サービス(主なもの)】

取扱 商品 取引 形態	株式		債券		投資 信託	ETF	REIT	先物・ オプシ ョン	証券 CFD	FX 取引
	国内株	外国株	国内債	外国債						
対面取引	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×
カスタマー センター	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×
オンライン トレード	○	○ (※1)	×	×	○ (※2)	○	○	×	×	×

○：取扱あり。×：取扱なし。詳細は、当社営業店舗までお問い合わせください。

※1 オンライントレードでの外国株取引は、香港市場上場銘柄のうち一部の銘柄のお取扱いとなります。

※2 オンライントレードでの投資信託取引は、当社取扱い銘柄のうち一部の銘柄のお取扱いとなります。

当社では、上記の商品・サービスのほか、有価証券の引受け業務や機関投資家向けの各種商品やサービスの提供なども行っております。当社の業務の詳細は、「業務及び財産の状況に関する説明書」本文をご参照ください。

岡三証券株式会社

企画部

〒103-8278 東京都中央区日本橋 1-17-6

TEL 03(3272)2211(代)

OKASAN SECURITIES CO., LTD.

<http://www.okasan.co.jp/>